

日本農業気象学会 2017 年大会 公開シンポジウム

気候変動と北東北農業の未来

日時：2017 年 3 月 29 日（水）14:45～17:45

会場：北里大学獣医学部 本館 B 棟 B11 講義室

主催：日本農業気象学会 後援：青森県・十和田市・北里大学・JA 全農あおもり

開催趣旨

北東北における過去 100 年間の気候変化と 21 世紀末の気候予測を踏まえつつ、北東北農業の基幹である水稻栽培、リンゴ栽培ならびに畜産について、不利な気象条件を克服してきた歴史や、既に顕在化している気候変動の影響ならびに適応策などを紹介する。最後に、気候変動を踏まえた北東北農業の未来について議論する。

オーガナイザー：長谷川 利拡 農研機構東北農業研究センター 農業気象グループ長

プログラム

1. 趣旨説明（14:45～14:50）

2. 講演

(1) 東北北部の気候の変化（14:50～15:20）

淵上 隆雄 仙台管区气象台 気象防災部 地球環境・海洋課 地球温暖化情報官

地球規模の気候変動の影響は東北北部にも現れており、長年の観測データは気温の上昇をはじめとして様々な気候の変化を示している。また、気象庁が実施した将来気候のシミュレーション結果は、今世紀末までにはさらなる変化が起こる可能性を示している。今回はこれらについて、データを示しながら説明する。

(2) 北東北での気候変動の稲作への影響と品種改良を中心とした対応（15:20～16:00）

須藤 充 青森県産業技術センター農林総合研究所 藤坂稲作部 部長

北東北の稲作栽培では、低温の影響により過去に何度も冷害が発生し、収量の減少、品質・食味の低下などの大きな被害を受けている。また近年は、出穂後の高温の影響により米の品質が低下する被害が発生している。ここでは、これらの気温の変化に対応した抵抗性品種の育成を中心に紹介する。

————— 休憩 —————（16:00～16:15）

(3) 気候変動と北東北のリンゴ栽培（16:15～16:40）

伊藤 大雄 弘前大学 農学生命科学部 准教授

青森県のリンゴ産業は、「水稻冷害を代替作物で回避する」という信念を背景に、冷涼な気候を積極的に活かして発展した。現在、温暖化の影響が既に現れており、2011 年の予期せぬ大不作も温暖化影響の可能性がある。今後、台風の強大化や積雪量の増加あるいは減少に対する対策も必要となる。

(4) 【事例紹介】秋田県鹿角地域における「北限の桃」産地化への取り組み（16:40～16:55）

中村 佐之 秋田県鹿角地域振興局 農業振興普及課 果樹産地支援班 副主幹

秋田県鹿角地域は年平均気温 9.4℃で典型的な内陸性気候を呈し、りんご栽培の歴史が長い。しかし、りんごの価格低迷や生産性の低下により、平成 12 年からそれまで栽培不可能とされていたものの産地化に取り組んだ。平成 27 年には、栽培面積約 60ha、JA における販売実績が約 1 億 5 千万に達する産地となった。

(5) 気候変動と草地の施肥管理：温室効果ガス収支と堆肥施用の効果、八雲牧場の窒素フロー（16:55～17:15）

寶示戸 雅之 北里大学 獣医学部 フィールドサイエンスセンター 八雲牧場長・教授

1) 草地における温暖化ガス収支を渦相関法で調査した結果、化学肥料の管理では収支は放出側であったが、堆肥を施用することにより吸収側にシフトした。堆肥施用に応じた窒素減肥の効果も大きかった。2) アンモニア発生の実態と地域内循環の実態を明らかにした。3) 資源循環型畜産を実践する北里大学八雲牧場の窒素収支は、わずかな窒素蓄積が確認された。

3. 総合討論（17:15～17:45）

(2017.1.19 版)